

秋田市教育委員会
会 議 録

令和6年7月定例会

記録者

秋田市教育委員会令和6年7月定例会会議録

1 日 時 令和6年7月25日（木曜日）
午前9時～午後5時

2 場 所 正庁

3 出席委員 教育長
教育委員
教育委員
教育委員
教育委員

4 出席職員 教育次長
教育次長
副理事兼総務課長
副理事兼生涯学習室長
総務課参事
学事課長
学校教育課長
教職員室長
教育研究所長
学校適正配置推進室長
秋田商業高等学校副校長
秋田商業高等学校事務長
秋田商業高等学校教諭
御所野学院高等学校長
御所野学院高等学校事務長
御所野学院高等学校教諭
美大附属高等学院副校長
美大附属高等学院事務長
美大附属高等学院教諭
総務課長補佐

学校教育課長補佐
総務課副参事
学校教育課副参事
学校教育課副参事
学校教育課副参事
学校教育課副参事
学校教育課副参事
教育研究所副参事
教育研究所副参事
教育研究所副参事
学校適正配置推進室副参事
教育研究所主席主査
教育研究所主席主査
教育研究所主席主査
総務課主査
総務課主任
総務課主事

5 議 題

【付議案件】

議案第9号 令和7年度使用秋田市立中学校教科用図書の採択に関する件

議案第10号 令和7年度使用秋田市立秋田商業高等学校教科用図書
の採択に関する件

議案第11号 令和7年度使用秋田市立御所野学院高等学校教科用図書
の採択に関する件

議案第12号 令和7年度使用秋田公立美術大学附属高等学院教科用図書
の採択に関する件

【教育長等の報告】

- (1) 令和7年度秋田公立美術大学附属高等学院入学者選抜募集定員に関する件について
- (2) 令和6年度教育委員会事務の点検・評価について
- (3) 秋田市立中学校における個人情報
の不適切な取扱いについて

(4) 学校適正配置に関する地域協議の開催状況等について

6 議 事 午前9時開会

【令和6年6月定例会会議録の承認】

令和6年6月定例会会議録について、異議がないため承認された。

【会議録署名委員の指名】

教育長が今回会議録の署名委員として委員2名を指名した。

【非公開の議決】

教育長 報告(3)については、個人に関する情報を含み、会議を公開することにより個人の権利利益を害するおそれのある案件となる。

したがって、この案件については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項ただし書の規定により、秘密会として取り扱うこととし、日程の最後に審議したいと思うがどうか。

※ 以上の発議があり、全員賛成により議決された。

【付議案件】

教育長 本日は議案4件と報告4件があり、この中でも議案第9号の中学校教科書採択は、質疑や意見集約に特に時間を要するものと考えられる。

したがって、議案第10号から議案第12号までの高等学校等の教科書採択の審議と、報告(1)、(2)および(4)を先に行った後、中学校教科書採択の議案第9号の審議を行いたいと思うがどうか。

※ 異議がなかったため、議案第10号、議案第11号、議案第12号、報告(1)、報

告(2)、報告(4)、議案第9号、報告(3)の順に審議することに決定した。

議案第10号 令和7年度使用秋田市立秋田商業高等学校教科用図書採択に関する件

教育長 議案第10号「令和7年度使用秋田市立秋田商業高等学校教科用図書採択に関する件」について、事務局から説明願う。

秋田商業高等学校副校長 (学校の概要について説明)

秋田商業高等学校教諭 (資料に基づき説明)

委員 新しく選定された教科書は、1年生が使用する教科書で、2年生や3年生の教科書出版社とそろえたように見受けられるが、以前は違う出版社の教科書を選定していたのか。2年生や3年生と同じ出版社の方が扱いやすいということはあるのか。

秋田商業高等学校教諭 「公共」に関しては、昨年度は違う出版社であった。担当者も今年度から変わっているが、担当者が選定した結果、偶然同じ出版社となったものである。

委員 卒業後の進路について、進学7割、就職3割ということであるが、教科書採択に当たり、進学に向けて配慮している点はあるのか。

秋田商業高等学校副校長 特に4年制大学に進学する場合、他の学校から来た学生と机を並べて学ぶことになるため、できる限り思考力や主体的に学ぶ力も含めて伸ばすという観点から検討している。

委員 基礎や基本をしっかりと身に付けた上で、進学先に合わせ、力をつけていっていただければと思う。

※ 議案第10号については、全員賛成により、議決された。

議案第11号 令和7年度使用秋田市立御所野学院高等学校教科用図書採択に関する件

教育長 議案第11号「令和7年度使用秋田市立御所野学院高等学校

教科用図書の採択に関する件」について、事務局から説明願う。

御所野学院高等学校長 (学校の概要について説明)

御所野学院高等学校教諭 (資料に基づき説明)

委員 中学校の教科書を見ると、2次元バーコードが掲載されているものが多いが、御所野学院高校においても、同様にICT機器を使用した授業が行われているのか。

御所野学院高等学校教諭 私の担当である数学を例に出させていただくと、指導用教科書には2次元バーコードが掲載されており、グラフの平行移動など簡単な画像を取り込めるようになっているため、授業に活用している。

委員 生徒がアクセスできる2次元バーコードは少ないのか。

御所野学院高等学校教諭 数学に関しては、生徒用の教科書には掲載されていない。

委員 論理国語、古典探究、文学国語に関しては、大学入試共通テストに対応できるレベルの教科書を選定しているとのことであったが、授業についていくのが難しい生徒に対してどのような支援を行っているのか。

御所野学院高等学校教諭 考査前学習会において、不安を感じている生徒への指導を行っているほか、定期考査で点数が優れなかった生徒に対しても、教科ごとにフォローに努めている。

委員 対象となる生徒は、どれくらいいるのか。

御所野学院高等学校教諭 国語で10人は超えており、数学や英語になると、もう少し増える状況である。

委員 先ほどの説明にあった、コンパクトハイスクールというスローガンの下、少人数で丁寧な指導をされていると思うので、継続していただきたい。

教育長 校長先生の説明にあった学力差が非常に大きいという部分は、御所野学院高校にとって従来から課題とされてきているところかと思う。きめ細かな指導で、子どもたち一人ひとりの進路実現に向けて取り組んでいただいていると思うので、

新たな教科書を使用しながら、さらに取組を推進していただきたい。

※ 議案第11号については、全員賛成により、議決された。

議案第12号 令和7年度使用秋田公立美術大学附属高等学院教科用図書採択に関する件

教育長 議案第12号「令和7年度使用秋田公立美術大学附属高等学院教科用図書採択に関する件」について、事務局から説明願う。

美大附属高等学院副校長 (学校の概要について説明)

美大附属高等学院教諭 (資料に基づき説明)

教育長 昨年度の卒業生の進路について、秋田公立美術大学が7名、他の4年制大学が4名とのものであったが、共通テストの受験者の割合は、どの程度か。

美大附属高等学院教諭 推薦入試合格後に共通テストを受験した生徒はいたが、一般入試のために共通テストを受験した生徒はいない。

教育長 各教科の教科書は、基礎的なものが採択されているように思うが、副教材や問題集などを利用して個別に対応している場合もあるのか。

美大附属高等学院教諭 秋田公立美術大学に進学した7名の内訳は、指定校推薦3名、県内枠推薦2名、秋田市内枠推薦2名となっている。この推薦試験で合格に至らなければ共通テストを利用する受験となるため、夏休みや冬休み等を利用して全員に補習を実施しており、その際に問題集等を利用している。

委員 デザインや制作など芸術系の科目にもしっかりと取り組んでいる印象を持っているが、授業では、教科書は使わず、他のテキスト等を使用しているのか。

美大附属高等学院教諭 インテリアデザインコースでは、インテリア計画という教科書を使用してきたが、来年度からは教科書がなくても学習

指導できるとの担当者の意見もあり、特段準備していない。

なお、各コースとも人との関わりを重視しており、インテリアデザインコースでは、家族が理想とする家を作ることによって家族にインタビューを行ったり、ビジュアルデザインコースでは、本市で働いている方々にインタビューし、それをデザイン化していくという活動を予定している。

教育長

教科書として選定はしていないが、学校として、専門分野についての教育課程は確立されており、そこで教材を準備し授業を行っているということでしょうか。

美大附属高等学院教諭

そのとおりである。教科書という紙媒体を学びの題材とする教科が多い中、本校の特色として、教科書の代わりというか、実際に生きたものを教材として使用していきたいという考えがある。

委員

デザイン史の教科書が、令和5年に検定済となっているということは、ようやく改訂されたということか。

美大附属高等学院教諭

そのとおりである。文部科学省著作で唯一のデザイン史の教科書であり、今年度から使用している。

委員

先ほど、教科書の選定に当たっては、学校の専門性から美術的な面を大事にしているとの説明があり、例えば、地図の教科書の特長にある「色使いに工夫があり、A4版で見やすい」という表記は、この点に合致するものと思う。加えて、教科の特性に関する部分についても記載されていれば、その教科書が子どもたちに学力をつけるために選定された要因を印象付けられるのではないかと。来年度の選定に向けての願いにはなるが、各教科の特性にも注目し、記載していただければと思う。

※ 議案第12号については、全員賛成により、議決された。

【教育長等の報告】

(1) 令和7年度秋田公立美術大学附属高等学院入学者選抜募集定員に関する件について

教育長 報告(1)「令和7年度秋田公立美術大学附属高等学院入学者選抜募集定員に関する件について」、事務局から説明願う。

美大附属高等学院副校長 (資料に基づき説明)

教育長 専願の合格者を全体の8割程度としたことの根拠等について、これまでの志願状況から見てどうか。

美大附属高等学院副校長 まずは、一定の人数がいなければ、効果的な教育活動を推進することは難しいと考えた。その上で、4コースあるが、1コース当たりの平均人数を6名以上と換算し、全体の8割程度とした。実際は、希望に応じてコースを決定するため偏りは生じるものの、8割、25名程度というのは妥当と考えている。

教育長 これまでの実績から、専願の生徒が25名以上はいるという想定か。

美大附属高等学院副校長 そのとおりである。本校は、令和4年度までは前期と後期の2回入試を行っていたが、令和5年度から1回としている。

令和5年度、6年度とも、専願の出願者数は、30名程度であるが、7年度も同等かそれ以上を目指して広報活動に励んでおり、十分に確保できるという見通しを持っている。

委員 令和5年度、6年度の併願の状況を見ると、5年度は、合格者10名中入学者2名、6年度は、合格者10名中入学者5名となっているため、全体の30名を割ってしまうのではないかと思う。合格者数を多めにせず、定員の30名を超えないこととした理由はどうか。

美大附属高等学院事務長 本校の入学者定員は90名となっている。これまでは、各学年の人数が30名を下回っており、全体で90名を超えないことから、合格者を30名以上出すことができていたが、30名を超える入学者が出た場合は、次年度の入学者を減らさなければならない状況にもなり得ることから、合格者数は

30名を超えないこととしたものである。

教育長 入学者定員90名というのは、何において決まっているものか。

美大附属高等学院事務長 学則で定められている。これまでは、各学年20数名程度で推移しており、30名以上の合格者を出したとしても対応できていたが、将来的なことを考え、合格者は30名を超えない方が良く考えたものである。

委員 今後、入学者数が減った場合には、合格者を増やす可能性はあるのか。併願の5名全員が入学するとは限らないと思うが、減った分を翌年度に追加して合格者を出す可能性はどうか。それとも、前年度の状況に関わらず、30名のままとするのか。

美大附属高等学院事務長 今後は、30名のままでやっていきたいと考えている。

※ 報告(1)については、以上のとおり終了した。

(2) 令和6年度教育委員会事務の点検・評価について

教育長 報告(2)「令和6年度教育委員会事務の点検・評価について」、事務局から説明願う。

副理事兼総務課長 (資料に基づき説明)

学校教育課長 情報セキュリティと個人情報の取扱いについて、ご意見を頂いた内容については、教育委員会で適切に扱うべきものと捉えているため、教育委員会事務の点検・評価とは別に対応したいと考えている。

教育長 頂いた意見については、今後の事業に反映していくということか。

学校教育課長 そのとおりである。

教育長 表記上のご指摘いただいた点については、修正がされていると思うがどうか。

各教育委員 異議なし。

※ 報告(2)については、以上のとおり終了した。

(4) 学校適正配置に関する地域協議の開催状況等について

教育長 報告(4)「学校適正配置に関する地域協議の開催状況等について」、事務局から説明願う。

学校適正配置推進室長 (資料に基づき説明)

委員 河辺地域ブロック協議会の賛成と反対が半々に分かれている状況について、教育委員会としては適正配置を進めていくという立場でよいと思うが、資料に記載されているとおり、協議がなかなか前に進まないと思うとの意見もあることから、例えば、これまで統合に至った他地域の例などを示し、少しずつ理解を求めていくなどの努力が必要ではないかと思うがどうか。

学校適正配置推進室長 児童数の将来推計をお示しする中で、PTAとしても、学年に1人、2人しかいないという状況にかなり危機感を感じている。そういった中で、未就学児の保護者の意見を聞きたいという思いから個別に聞いて回ったり、アンケートの実施なども考えているようで、徐々に意識も変わってくるのではないかと考えている。また、飯島小と下新城小の検討状況など全市的な流れについて情報提供する中で、地域や保護者の意識も少しずつ変わってきている感覚もあることから、引き続き、子どもたちのよりよい教育環境を一緒に考えていくというスタンスで地道に進めていきたい。

委員 子どもたちの教育のために努力していただいて、地域も納得した上で統合となるかどうかは分からないが、道筋を作っていたいただきたいと思う。

教育長 現状としては、地域全体が反対しているというより、地域協議自体がなかなか進んでいないというところで、協議会で出た意見にもあるとおり、保護者の意見を取りまとめて地域

に説明していく機会を設けるなど、本当に地域を取り込んだ協議にしていくことを目指していきたい。

学校適正配置推進室長 協議が進まないということであれば、やはり我々の方から出向いて、地域なり保護者に対して丁寧に説明をしていきたい。

委員 岩見三内小・中学校については、学校訪問の際、地域が温かく見守っていて、学校に対する愛着が本当にひしひしと感じられた。一方で、我々の予想以上に少子化が進んでいることも様々な報道から実感しているところである。未来の子どもたちの状況、そして保護者の思いを取りまとめながら、理解を求めていただければという今の思いである。

築山小、中通小は、伝統校が統合し、新しい学校が生まれていくということで、校名の公募などを含め、わくわくするところである。

土崎小、土崎南小に関しても、内館さんや天野さんから作っていただく校歌は、これから新しい歴史を刻んでいく学校にふさわしいものになると大変わくわくする。そういった意味で、周りの方々の思いに寄り添いながら進めていただいているものと感じている。

教育長 どのような校歌ができるのか、大変楽しみである。

※ 報告(4)については、以上のとおり終了した。

【その他、今後の日程についての報告】

総務課長補佐 今後の日程についてお知らせする。8月定例会については、8月22日木曜日午後3時30分から開催する予定である。

教育長 8月定例会は、8月22日木曜日午後3時30分から開催予定とのことである。委員の皆様、よろしく願います。

議案第9号 令和7年度使用秋田市立中学校教科用図書採択に関する件

教育長 審議に入る前に、これまでの経緯等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 (経緯等について説明)

教育長 資料について、事務局から説明願う。

学校教育課長 (資料に基づき説明)

教育長 審議の方法について確認する。採択対象の発行者全てが審議の対象となるが、選定委員会の答申を参考にしつつ、推薦された2社を中心に審議したいと思うがどうか。

※ 異議がなかったため、選定委員会の答申を参考に審議することとした。

教育長 議案第9号の審議に入るが、委員より、光村図書出版の編集協力者となっていることから退席する旨の申出があったので、認める。

また、光村図書出版が関わる国語、書写、美術、英語、道徳について、先に審議したいと思うがどうか。

※ 異議がなかったため、国語、書写、美術、英語、道徳を先に審議することに決定した。

教育長 それでは、委員は退席願う。

(委員退席)

教育長 それでは、「国語」から審議する。「国語」の推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 「国語」は、「東京書籍」、「光村図書出版」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

教育長 各社とも学びの段階を非常に大切にしており、充実していると感じたところである。

- 委員 各社とも見やすく、特に、東京書籍は、生徒自身が自主的、自発的に学習できるようになっており、とても分かりやすく整理されているほか、イラストは特に分かりやすい。
- 光村図書出版は、レポートを書くとかテーマ設定をあらかじめ例示するなど、分かりやすい工夫が見られる。光村図書出版を推薦する。
- 委員 光村図書出版は、学習の流れが良いと感じた。最初の教材を取り上げる前の段階に問いやテーマを持ってきていて、本文の後に学習活動や目標があり、最後に「学びのあと」という流れや、「学びのカギ」も良い。「学びのカギ」は、その単元でやることに加えて、関連するページとの連携もよく、分かりやすく展開されている。古典においても、学年によって現代語訳の入れ方を変えるなど、丁寧である。以上から、光村図書出版を推薦する。
- 教育長 光村図書出版の「学びへの扉」と「学びのカギ」は、単元の学習を終えた後に、視点をまた広げる工夫がなされている。内容面では、現代的な課題をより意識しているのは東京書籍という感じを受けた。光村図書出版は、比較的なじみのある題材が多く、著名な作家の作品や子どもたちに読ませたいと思う文学的文章が多い印象である。
- 委員 現代的な課題をより取り上げているのは東京書籍という点は同感である。一方、光村図書出版は、私が学んだときの題材もまだ残っていて、個人的になじみのある文章でほっとするようところが感じられるほか、脚注などの構成も良い。
- また、東京書籍の手引きと光村図書出版の「学びへの扉」を比較した場合、「学びへの扉」の方が読みやすく、何を学べばいいのか分かりやすく感じた。以上から、光村図書出版を推薦する。
- 教育長 確かに「学びへの扉」は、内容を捉えやすい感じがある。

「国語」については、「光村図書出版」を採択することにするがよいか。

※ 全員一致により、「国語」については、「光村図書出版」を採択することに決定した。

教育長 次に、「書写」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 「書写」は、「東京書籍」、「光村図書出版」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

教育長 東京書籍は、巻末に「書写活用ブック」があり、光村図書出版は、巻頭に別冊として「書写ブック」があるが、これらの使い方はどうなるのか。

学校教育課副参事 書写の学習においては、毛筆で学習したことを生かして、硬筆で書くことが重要となるため、光村図書出版の「書写ブック」が活用できる。選定委員会では、書写の学習を日常生活や社会生活で生かすということについて意見が交わされていて、その際、東京書籍の「書写活用ブック」や、光村図書出版の巻末にある生活や他の教科に関連する「日常に役立つ書式」を活用できるという話が出た。

委員 光村図書出版は、行書導入において、何度も細かく段階を踏んでいて、子どもたちが行書を取り入れていくのにとっても丁寧であると感じられた。光村図書出版を推薦する。

教育長 毛筆の導入部分が、大変丁寧という点は同感である。

委員 全体的に、光村図書出版は、手書きはすごく良いものという感じで、東京書籍は、伝え方の1つであるという違いがあるとの印象を受けた。例えば、東京書籍では最初は文字を書くとは何だろうと書いてあるのに対し、光村図書出版は、詩

※ 全員一致により、「書写」については、「光村図書出版」を採択することに決定した。

教育長 次に、「美術」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 「美術」は、「開隆堂出版」、「日本文教出版」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

委員 日本文教出版は、考えてみようとか、どのような工夫がされているかなど、質問形式になっており、子どもたちが主体的に考えることができるように工夫されているところが魅力であった。

開隆堂出版は、実際の作品がどのような意図で作られたかなど、丁寧に記述されているところや、本としての美しさ、丁寧に構成されていることから、開隆堂出版を推薦する。

委員 同じように絵巻物の世界について取り上げているが、開隆堂出版の方が分かりやすく、美術の教科書として装丁も凝っている。また、紙質について、日本文教出版は、反射する感じで若干見づらいが、開隆堂出版は、しっとりした紙質で細かい部分まで配慮している印象を受けた。以上の点から、開隆堂出版を推薦する。

教育長 確かに、紙質の違いによる影響は感じる。

委員 開隆堂出版は、立体的な表紙が非常にインパクトがあり、生徒たちも興味を示すのではないか。紙質もとても見やすく、全体的に作品を立体的に見られる作りになっている。また、「秋田の木とずっと一緒に」というところで、曲げわっぱの弁当箱や樺細工の茶筒など、秋田の子どもたちが親近感を覚えるような内容もある。

日本文教出版は、内容的に非常に頑張っていると感じる。屏風を実際に立てるような仕組みを視覚的に見られるところや、秋田という部分で言えばナマハゲが出てきたり、青森のねぶたや仙台の七夕まつりなど、比較的生徒たちが身近に感じられるお祭りや風習も取り入れられていて、とても良い内容だと思う。日本文教出版を推薦する。

教育長

各社とも工夫されており、非常に甲乙つけがたいという感想である。それぞれに素晴らしい点がある中で、装丁の良さや、モナリザの鑑賞のところの原寸のひびの入った感じなど、これまでなかった見せ方、図版の迫力というところで、開隆堂出版が良いと感じられた。木に関するページでも、開隆堂出版の方が、制作に関わる様々なところを取り上げていて丁寧であると感じた。

「美術」については、「開隆堂出版」を採択することにするがよいか。

※ 「美術」については、「開隆堂出版」を採択することに決定した。

教育長

次に、「英語」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長

「英語」は、「東京書籍」、「光村図書出版」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

委員

光村図書出版は、導入から丁寧に時間を掛けて進められていて、徐々に慣れていくよう配慮されている一方、東京書籍は、早い段階で例文が出てきて学ぶことができる。語学は、早く英文、例文に慣れ親しんで自分でどんどん使ってみてものにしていくのがよいと考えることから、東京書籍が良いのではないかと考える。また、教科書の大きさも東京書籍の方が大きく、

字や図も余裕を持って配置されている感じを受ける。

教育長

1年生の入門期は、基本的に小学校における英語学習の基礎の上に立っていると思うが、東京書籍のように最初から文例があって書くところがあるといったことは流れとしてはどうか。

学校教育課副参事

小中接続に関しては、両社とも非常に配慮されているとの意見が選定委員会では多く出されていた。東京書籍は、初期段階から例文等が多く出ているとのことであるが、そのほかに全てのページにエンジョイコミュニケーションという形で、小学校で慣れ親しんだ聞くこと、話すことの活動が設けられており、読んだり書いたりする面にも、聞く話すという面にも配慮されているという意見が出ていた。

教育長

いずれも配慮された上での進め方ということで了解した。

委員

東京書籍は、中学校で学ぶ本格的な英語に非常にうまく接続しているという印象である。また、ビジュアル面も非常によく、様々な写真を取り入れて想像しながら学習を進めていけるほか、情報量が多く英語好きな生徒にとっては学習しやすい内容となっている。

光村図書出版は、非常にシンプルで、イラストなども多く取り入れられているほか、巻末の付録の「英語の学び方ガイド」など、生徒が見通しを持って学習できるよう工夫されている。ただ、生徒たちの興味・関心を捉えられるかというところで少し疑問があり、東京書籍を推薦する。

委員

光村図書出版は、各項目とも非常に見やすく、子どもたちが、いま何をやるのかというところが把握しやすく工夫されている。東京書籍は、ユニット4までは小学校の復習をメインにしながらも、先程来からあるように英文が結構出てきて、丁寧な作りである。また、情報量も多く、「Real Life English」など実際のコミュニケーションで役立つ内容も設定されていて内容が厚い。東京書籍を推薦する。

教育長 合唱コンクールや修学旅行など、扱っている題材自体は、光村図書出版の方が今の学校生活と関連付けながら学習できて良いと感じるが、全体的なページ構成やバランスの良い配置などは東京書籍と感じた。

また、英語の場合、デジタルコンテンツも結構使用すると思うが、答申にある東京書籍のビデオレター等による国際交流の疑似体験について、説明をお願いする。

学校教育課副参事 ビデオレターは、教室の子どもたちに対して、カナダの生徒たちが呼び掛けたり、質問を投げ掛けたりするなどの交流を体験し、実際に子どもたちが異なる文化などについて考えていくという形が取られている。

教育長 そのような点も、東京書籍の特徴の1つである。

「英語」については、「東京書籍」を採択することにするがよいか。

※ 全員一致により、「英語」については、「東京書籍」を採択することに決定した。

教育長 次に、「道徳」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 「道徳」は、「東京書籍」、「光村図書出版」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

教育長 光村図書出版と東京書籍は、特徴的には対極にあるという感じがする。例えば、いじめの問題では、東京書籍は、いじめに当たる行動はどれかというところから入って、それについて書いて考える、傍観者でいいのかという資料があって、最後にいじめの構造についてはっきり書いているという取扱い方である。光村図書出版は、「魚の涙」で作者の中学時代

を題材として、公正・公平について考えた後、「いつもの教室の中で」いじめが起こらないようにするにはどうすればいいだろうと「まなびをプラス」で話し合うという形になっていて、やはり違いがあると感じる。個人的には、このような現代的なテーマは、東京書籍のような、ある程度直接的な進め方もあるのかなと思ったところである。

委員

東京書籍は、写真を使うなどして直接的に問い掛けてくるような作りである。例えば、歩きスマホの問題が取り上げられていて、普段の生活の中で子どもたちがどう行動すればいいのか、どのような道德感を持って生活していけばいいのか、直接的に語られていると感じた。

光村図書出版は、イラストあるいは漫画などを多く使って、子どもたちに考えさせる、想像させるという道德の教科書らしい作りである。中でも注目したのは、少々特殊な題材ではあるが、女性で初めてねぶた師になった北村さんという方の内容で、小さい頃の環境が将来の自分の夢につながるとか、諦めなければどんな職業でもやっていけるという希望を持っている内容であった。光村図書出版の方が、いわゆる道德的な教科書で考えさせられる内容が多いと感じた。

委員

光村図書出版は、振り返りの部分で「考えよう」という項目で、自分の立場からの一方的な考えではなく、相手の立場や様々な角度から考えることを子どもたちに促すような内容になっていると感じた。いじめに関しても、全然関係ない項目でも関連する話が出てきたりするなど、直接的ではないが、様々な方向から考えていく中で結果的に掘り起こしていくこともできるのではないかという感じもある。子どもたちに考えさせるという点で、光村図書出版を推薦する。

委員

以前にも指摘があったかもしれないが、東京書籍は、テーマタイトルで答えを出してしまっている感じが気になる。例えば、「風評被害で相手を認めるには」とタイトル付けされ

ていると、何か答えを誘導しているようにも受け取られるかなというのに対して、光村図書出版の「魚の涙」のタイトルは、「公平・公正・社会正義」で、誘導的なところはない。道徳は、答えが1つではない教科ということを考えてみると、どちらかといえば光村図書出版の方が良いのではないかと感じた。また、光村図書出版は、非常に考えさせる内容となっており、題材の選定も含めて良いと思った。

いじめについては、先ほどあったように、東京書籍は、割と直接的に表現しているのに対して、光村図書出版は、そこまで直接的ではないが、「まなびをプラス」でさらに考えを深める構成となっていて、非常に工夫されている。平面的ではなく階層的に考えさせるような印象であり、光村図書出版を推薦する。

教育長

今回、光村図書出版には「チャレンジ 問いを立てよう」というページができていて、子どもたちが自ら問いを作って考える内容となっており、なかなか取組として良いと感じた。

「道徳」については、「光村図書出版」を採択することにするが良いか。

※ 全員一致により、「道徳」については、「光村図書出版」を採択することに決定した。

(委員入室)

教育長

次に、「地理」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長

「地理」は、「東京書籍」、「教育出版」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

委員

教育出版は、見やすさ、探しやすさといった点で工夫がな

されているほか、特設ページのクロスロードは、非常に見応えがあって良いと思う。東京書籍は、章や編の導入部分がとても丁寧で、構成が非常に練られていると思った。また、探究課題の解決や振り返りのコーナーも、子どもたちが個人活動だけでなくグループ活動もしながら学習できる内容であり、東京書籍を推薦する。

委員

教育出版は、必要な写真や資料が適切に掲載されていて、子どもたちの思考に結び付くのではと思った。東京書籍は、非常に豊富な資料を掲載し、広い視野から物事を捉えられるようなページを特設している。また、「日本の諸地域」の「東北地方」では、1ページ目に本県の竿燈が掲載されており、本市の子どもたちにとっては大変興味を引くものとなっている。重要無形民俗文化財になった男鹿のナマハゲも、地方に根付いた文化という面がしっかりと捉えられていて、他の掲載写真も同様のこだわりを持ちながら作成されたものと推察する。以上から、東京書籍が、本市の子どもたちの学びに寄り添っていくのではないかと考える。

委員

日本の領土のところでは、東京書籍は、歴史的事実に基づいた書きぶりである。教育出版は、北方領土について、年表や現状のほか、関連としてソ連からロシアへの体制変更にも触れており、領土問題については教育出版が良いと思う。また、南東を上にして大陸から日本を見た場合、ロシアから見れば北方領土はロシアに近いとか、大韓民国から見ると竹島は大韓民国に近いとか、そういった視点もあるということで、非常にグローバルな見方であると感じた。これは一例であるが、教育出版の方が、子どもたちの興味・関心を引き、自発的に学習する意欲というものが湧くのではないかと思い、教育出版を推薦する。

委員

東京書籍は、「チェック&トライ」等で学習内容の定着を図るよう工夫されているほか、解説なども分かりやすいと感

じた。また、「日本の諸地域」の「東北地方」の単元では、竿燈まつりや男鹿のナマハゲが取り上げられており、秋田の子どもたちにとってはうれしいと思う。全体構成も分かりやすく、東京書籍を推薦する。

教育長

資料を整理しながら課題解決的な学習ができるように配慮されているといった点は、共通している。1単位時間ごとのページを開いたときに、左側ページのトップ写真について、教育出版は学習課題につながるつぶやきや「LOOK!」という細かな解説がある。一方、東京書籍は、あまりコメントはない。どちらが良いかとなった場合、私は、想像力を働かせて考えるといった点で、教師として扱うときには、東京書籍の方が子どもたちの考え方を広げやすいのではないかとの感じを持った。

「地理」については、「東京書籍」を採択することにするがよいか。

※ 「地理」については、「東京書籍」を採択することに決定した。

教育長

次に、「歴史」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長

「歴史」は、「東京書籍」、「教育出版」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

委員

本市社会科の重点である「表現する力を高める指導の充実」ということで、まとめの部分でどのように工夫がされているかに注目したところ、東京書籍は、「確かめよう振り返ろう」というコーナーを設け、例えばクラゲチャートやXチャートなどにまとめ、思考を整理して深める手立てあるいはそれを基に対話していくことも意図して構成されているのではないかと感じた。以上から、東京書籍を推薦する。

教育長 私も、東京書籍は、「まとめの活動」で様々な思考ツールを活用していて、子どもたちがよく考えるための機会を作っていると感じた。

委員 私も、まとめの部分での工夫や、年表をページの右側に配置し時間軸を捉えやすくしている工夫などの点から、東京書籍が良いと感じた。また、もう1つのポイントとして、かなり細かくテーマごとに2次元コードを掲載しており、さらに探究できるようになっていて非常に構成がうまいと思った。教育出版も悪くはないが、東京書籍の方がより学ぶ側に立って作られている印象を受けたことから、東京書籍を推薦する。

委員 個人的には、説明の内容が、どちらかというところ東京書籍の方が理解しやすいと感じられた。また、年表の配置場所や資料の豊富さ、グラフの提示方法などにもより工夫が見られることから、東京書籍を推薦する。

委員 東京書籍は、まず各章の導入で小学校での学習事項を振り返り、その後、探究課題、問い、まとめの活動という一貫した構成で主体的に学習できるよう配慮されている。教育出版も、同様の配慮はなされているものの、最後のまとめのところの充実度などを考慮して、東京書籍を推薦する。

教育長 「歴史」については、「東京書籍」を採択することにするがよいか。

※ 全員一致により、「歴史」については、「東京書籍」を採択することに決定した。

教育長 次に、「公民」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 「公民」は、「東京書籍」、「教育出版」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

教育長

公民は、高校で新科目「公共」ができたり、主権者教育、成人年齢の引下げなど、社会との関わりで以前より重要性を増している。各社とも、そのような点を取り入れて、特色が出ていると感じている。

委員

教育出版は、「持続可能な社会に向けて」を軸にして、なぜルールを作る必要があるのか、なぜ差別は生まれるのかといった大きな課題を子どもたちに突き付けながら、真剣に世の中のことを考えさせていく構成が非常に迫ってくるものがあり、価値のある内容であった。

東京書籍は、「みんなでチャレンジ」を随所に設けており、社会に参画するイメージを広げたり、具体的な参加を促すといった意図が感じられた。本市社会科の重点事項にも「社会への参画意識を高める指導の工夫」があるが、子どもたちが具体的に社会を自分たちの力で変えていく可能性を感じられる作りとなっている東京書籍を推薦する。

教育長

東京書籍の「みんなでチャレンジ」は、政治参加をしてみよう、議員になって条例を作ろうなど、面白い切り口で大変興味深かった。教育出版の「持続可能な社会に向けて」は、「みんなでチャレンジ」と同じ意味合いを持ったページだと思うが、裁判員裁判のところで、ある事件を取り上げて、成立する可能性がある犯罪は、死刑とは、懲役とは、禁錮とはと考えて、最後、トライで判決を考えてみようとなっていて、こちらも違う踏み込み方で興味深く、それぞれ工夫があると感じた。

委員

「みんなでチャレンジ」の模擬裁判や、「持続可能な社会に向けて」の「なぜ裁判員裁判の制度があるのだろう」というところは、弁護士会のジュニアロースクールでよくやる内容であるが、専門的な立場から言うと、証言や証拠の評価の仕方が肝で、この部分だけで言えば、東京書籍の方がよく考

えられていると思った。教育出版は、割と知識重視で、多面的に見るという点がやや不足しているように感じられた。また、写真の取上げ方なども、東京書籍の方が子どもたちにとって身近な話であると感じさせる内容になっていると思った。

委員

私の専門の関係で、教育出版の「世論の形成とメディア」、
「マスメディアとインターネットの発達」、東京書籍の「メディアと世論」については、ほぼ内容は一緒でよくできているが、より詳しい記述は教育出版である。フェイクニュースの関係も同様である。ただし、中学生としては少々細か過ぎるという印象もあり、自発的に疑問を解決する、より知識を深めるために調べるといった子どもたちの行動を促す意味では、東京書籍でよいのではないかと判断する。

委員

先ほどもあったが、教育出版は、知識重視のような形が多く、東京書籍は「みんなでチャレンジ」のところで、関心を持って学ぶことができるのではないかと考えた。また、資料も、教育出版は、「持続可能な社会に向けて」ということで一貫している魅力があるが、東京書籍は、様々な角度から多くの資料を掲載していて、多彩なデジタルコンテンツもあり発展的な学習にもつながることから、東京書籍を推薦する。

教育長

資料の取扱い等でそれぞれ特色があるが、東京書籍の「みんなでチャレンジ」では、友達やグループで協議する場が設定されており、私もこうした機会は必要と感じたところである。

「公民」については、「東京書籍」を採択することにするがよいか。

※ 全員一致により、「公民」については、「東京書籍」を採択することに決定した。

- 教育長 次に、「地図」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。
- 学校教育課長 「地図」は、「東京書籍」、「帝国書院」が推薦されている。
- (審議の概要と推薦理由について、資料により説明)
- 委員 東京書籍の「Bee's eye」は、非常に見やすく、子どもたちが学習する際にも利用しやすいと思ったが、帝国書院は、地図全体における探しやすさがあった。また、資料の豊富さもあり、帝国書院を推薦する。
- 教育長 ページ数で言っても、帝国書院の方が20ページ以上多く、地図の使い方にもページを割いている。また、災害に関する資料等も帝国書院の方が丁寧に扱っていると感じる。
- 委員 ページ数の多さや資料の豊富さに加えて、導入部分が小学校からの接続を踏まえて丁寧に示されていることや、最近増加している気象災害の資料も多いことから、帝国書院を推薦する。
- 委員 東京書籍の地図も大変明るく見やすい内容となっており、2次元コードもうまく配置されている。帝国書院は、歴史や公民の学習にも活用することを意識して資料を掲載していると感じられた。2次元コードが増える中、アナログの紙の地図を使って何を学習させるのか、紙の良さを実感できるように授業を構成していく必要がある。その意味で、地図から必要な情報を読み取る力を身に付けられるよう、しっかりと紙面で確認してチェックさせたり、イメージを広げることを狙っていると思う。帝国書院を推薦する。
- 委員 東京書籍も大変よくできていると思うが、高低差の判別のところなど、地図の色合いで見にくい箇所がいくつかある一方で、帝国書院は、非常に見やすい。デジタルコンテンツは両社とも良いが、帝国書院の場合は国土地理院にもアクセスでき、子どもたちの興味も湧いてくるのではないかと。以上か

ら、帝国書院を推薦する。

なお、前回の小学校の教科書採択の際も指摘したが、鳥海山の読み方が、山形県での読み方である「ちょうかいざん」になっている。蔵王山と同様の形で、かっこ書きで「ちょうかいさん」と記載してほしい。

教育長 「地図」については、「帝国書院」を採択することにするがよいか。

※ 全員一致により、「地図」については、「帝国書院」を採択することに決定した。

教育長 次に、「数学」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 「数学」は、「教育出版」、「新興出版社啓林館」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

教育長 両社の教科書を並べてみると、啓林館の方が薄い。先ほどの説明で、学習内容を精選し情報が過多にならないよう配慮したとあったが、説明願う。

教育研究所副参事 選定委員会でも話題になった。数学的な見方・考え方を働かせて、子どもが思考を進めていくという部分については、各社とも共通して工夫されているところである。その中で、教育出版と啓林館は、非常にポイントを絞って、子どもたちが自分の考えを持って主体的に取り組めるよう配慮されているのが特徴的ということであった。加えて、啓林館は、ICTを活用することで、さらに学習内容を精選することにより、他社に比べ1割ほど、各単元で5ページ程度を削減できているところも特徴である。

教育長 例えば、教育出版の「数学の広場」のような内容は、啓林

館の場合は、デジタルコンテンツに含まれているのか。

教育研究所副参事 ご指摘の内容については、デジタルコンテンツには含まれず、解説や補充問題が多く掲載されている傾向にある。なお、教育出版の内容について、多くの素材というか、考える材料が豊富であるとの意見が選定委員会で挙がっていた。

教育長 生徒たちには、是非数学の良さ、数学が生かされていることを実感してほしいという気持ちがあることから、そのような内容がある教育出版が良いという感想を持った。

委員 啓林館は、ICTの活用で広がる数学の学習ということで、一人ひとりがタブレットを持っていることをうまく生かし、2次元コードにより紙面をすっきりと情報が過多にならないよう配慮し、主体的に学ぶ姿勢に結び付けるというコンセプトである。

一方、教育出版は、数学が生活に生かされていることを教科書の中で感じ取らせていくところが非常に工夫されていると感じた。やはり重要なのは、生活の中で数学が活用されていることと結び付くことによって、子どもたちが、数学の良さを教科書を通して実感していくことではないかと考える。以上から、教育出版を推薦する。

委員 自分の経験からも、数学は、つまずいてしまうと教科書だけでは理解できないと考える。その点で、啓林館は、ICTの活用ということで、内容をそぎ落として、動画と一緒に振り返ったり、応用問題を解いたりという思い切った内容となっている。授業の在り方、学習方法、教科書など、今後どうなっていくのかという意味で、非常にチャレンジングな教科書になっている気がする。教育出版は、従来の教科書の内容で、これ1冊で完結するということであるが、そろそろ本市も、啓林館のようなチャレンジングな教科書を使ってみるのも悪くないのではないか。

委員 教育出版は、子どもたちにこう学んでほしいというしっか

りとした方針があって作られていると思う。導入部分から丁寧で、学年が上がって応用の段階になっても、吹き出しのような形でヒントを掲載したり、考える過程も丁寧に扱っている。苦手な子どもたちにとっては、最初の導入と丁寧さで、得意で伸ばしたい子どもたちにとっては、応用のところで答えにたどり着くルートは1つではない、様々な考え方がありといった内容を掲載している教育出版が良いと思った。

委員

数学は、一見取っ付きにくい面があるので、教育出版の「数学の広場」のような、コラム的であるが非常に興味を引くような内容が、啓林館にはあまりないのが残念である。また、教育出版は、つぶやきの内容が非常に考えられているという印象である。また、学びのプロセスが掲載されているページでは、課題を発見して、見通しを立てて、自分で考えて、問題を解決して振り返るといったところが工夫されていて、見やすく分かりやすい。以上から、教育出版を推薦する。

教育長

「数学」については、「教育出版」を採択することにするがよいか。

※ 「数学」については、「教育出版」を採択することに決定した。

教育長

次に、「理科」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長

「理科」は、「東京書籍」、「大日本図書」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

委員

東京書籍は、実験という具体的な場面を通して、結論を導くというような流れとなっており、理科という教科の特性に合っている印象を受けた。また、東京書籍の方が、2次元コードなどデジタルコンテンツが非常に豊富であり、授業でも利用しやすいのではないかと感じられたことから、東京書籍

を推薦する。

委員

大日本図書は、実験の方法や結果がよく整理されており、吹き出しの内容も、生徒に気付きを促すような内容で興味深い。東京書籍は、章の初めの写真のインパクトがあり、子どもたちの探究心を刺激する入口としてすばらしいと感じた。見えないものが見えた瞬間や、不思議に思っていたこととある事象がつながったときの驚きと発見によって、子どもたちの探究心は培われるのではないかと感じたことから、東京書籍を推薦する。

委員

大日本図書は、見やすい紙面である。東京書籍は、導入から、子どもたち自身が考えながら進めていく上で、丁寧な構成となっている。また、読み物の資料等も充実していて、社会につながる科学ということで、多くの方の話が掲載されている。導入から振り返りまでの学習の流れが丁寧な作りで徹底されており、東京書籍を推薦する。

教育長

東京書籍は、すぐ解答にたどり着くような書き方をせず、子どもたちに考えさせるような構成で工夫が見られる。また、章末の理科の面白さを感じられる資料の豊富さなどからも、東京書籍がよいと思った。

委員

東京書籍は、非常に内容が詳しく記載されていて、コラムも面白い。いろいろな見方があると思うが、やはり内容や見やすさ、様々な実験の手順などをうまく取り入れて表現している点で東京書籍が良いのではないかと思う。

教育長

「理科」については、「東京書籍」を採択することにするがよいか。

※ 全員一致により、「理科」については、「東京書籍」を採択することに決定した。

教育長

次に、「音楽一般」について審議を行う。推薦の主な理由

等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 「音楽一般」は、「教育出版」、「教育芸術社」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

教育長 教育芸術社は、創作でICT機器を活用しているとの説明があったが、ICT活用の点で、両社に違いはあるのか。

教育研究所主席主査 教育芸術社では、教科書に2次元コードが記載されており、読み込むと創作のツールを利用できる。そのツールでは、生徒がタブレットを活用して自分でリズムを入力することができ、学年が上がると伴奏の和音なども入力できるようになっていて、自分でつくった音楽を再生して聞くこともできる。このような点が、教育芸術社の特徴である。

委員 近年、中学生にとって、音楽は自己表現できる楽しいものとなってきていると感じる。教育芸術社は、デジタルコンテンツが充実しており、創作ツールを利用すると音楽が奏でられ、表現の幅を広げることができる。また、伴奏でも、カラピアノというツールがあり、歌の個人練習ができるなど、子どものイメージに応じた内容となっており、非常に魅力的なコンテンツであった。教育出版社は、歌と情景の結び付きを大事にしながら、音楽を通して日本固有の文化を継承していきたいという思いが非常に伝わってきた。大変悩むところではあるが、子どもたちが音楽で自分自身を表現したり、自在に幅を広げることができればよいという思いもあり、デジタルコンテンツの充実が図られている教育芸術社を推薦する。

委員 教育芸術社は、付箋のような形で、質問や注目点などを投げ掛けていて、子どもたちも取り組みやすい工夫がなされている。また、「学びのコンパス」のコーナーが非常に充実していて、教育出版の「Active!」より、調べたり、感じたことを書いたり、話し合ってみたりと様々な形で学んだことを深めていく工夫があった。以上から、教育芸術社を推薦する。

- 委員 教育芸術社は、大きさなどを含めて非常に見やすく、プロの演奏者の方々のインタビューもあって読みやすいと感じた。
- また、著作権については、できるだけ早い段階でルールを学ぶべきであると考えているが、教育芸術社は1年生、教育出版は2年生で学ぶこととなっており、この点からも教育芸術社を推薦する。
- 委員 著作権については、知識の有無で対応が全然異なってくることから、問題意識として頭に置いておくべきものであり、その意味では、教育芸術社の取扱いは丁寧であると思う。また、デジタルコンテンツの創作ツールは、タブレットで使用できるということで、発展的な音楽の授業につながるのではないかという感じを受けた。他のコンテンツも豊富であり、教育芸術社を推薦する。
- 教育長 「音楽一般」については、「教育芸術社」を採択することにするがよいか。
- ※ 全員一致により、「音楽一般」については、「教育芸術社」を採択することに決定した。
- 教育長 次に、「器楽合奏」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。
- 学校教育課長 「器楽合奏」は、「教育出版」、「教育芸術社」が推薦されている。
- (審議の概要と推薦理由について、資料により説明)
- 委員 太鼓や琴などは、全校にはないと思われるが、実際のところどうか。
- 教育研究所主席主査 3年間で、琴、三味線、尺八、和太鼓などのいずれかの楽器を経験するということになっており、学校によってということになるが、琴、箏は多くの学校にある。
- 委員 そういう視点で見ると、教育芸術社は、写真が非常に充実

していて、自分でやってみたいと思うような作りになっている。アンサンブルで笑点のテーマがあったりして、遊び心もあっていいのではないかと思う。一方、教育出版は、先ほどの和楽器の部分の解説が、もう少し詳しくければよいと感じた。総合的に判断して、教育芸術社を推薦する。

委員

音楽一般と同様に、デジタルコンテンツの充実は、生徒の主体的な取組につながると感じている。教育芸術社は、例えば、リコーダーでは、正面と横、口元の写真があり、自分自身で確認しながら学ぶことができる。また、琴でも、教育芸術社は、上から撮った写真を掲載していて、演奏者の目線を意識していて工夫が感じられた。両社とも、選曲はすばらしく、どれも演奏してみたいという思いにさせるが、教育芸術社を推薦する。

委員

両社とも写真が豊富で魅力的であり、演奏したいと感じさせる内容である。演奏では、音楽一般と同様に、楽譜の上に付箋が付いていて分かりやすく、ただ演奏するだけではない形になっていることもあり、教育芸術社を推薦する。

委員

教育芸術社の「学びのコンパス」や日本の楽器一覧、伝統音楽の楽器編成といったところは、教育出版にはない内容であり、いろいろなことが学べるのではないかと思った。また、音楽一般が教育芸術社となったことも踏まえ、教育芸術社を推薦する。

教育長

デジタルコンテンツは、両社とも一人ひとりの技能に合わせてスピードを変えたりするなど様々な調整ができるが、若干、教育芸術社がよいという印象である。また、いずれも奏法を丁寧に扱っているが、例えば、ギターでは、教育出版は、姿勢の写真から始まるが、教育芸術社は、様々なギターや演奏家の写真となっていて、背中を伸ばすことよりも、まずは様々なギターがあるというところから始まることも良いと感じた。

「器楽合奏」については、「教育芸術社」を採択することにするがよいか。

※ 全員一致により、「器楽合奏」については、「教育芸術社」を採択することに決定した。

教育長 次に、「保健体育」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 「保健体育」は、「東京書籍」、「G a k k e n」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

委員 健康は、人生において財産となるものであり、中学校から自分の生活を振り返っていくことは非常に重要なことである。G a k k e nは、ウォームアップが魅力的で、生徒に関心を持たせ、課題追究の意欲を高めながら、その章に入っていくよう配慮されていると感じた。

一方、東京書籍は、テーマによって色分けするなど、紙面も見やすい。また、根拠を持って話合いに臨んだり、考えさせる工夫がなされていることに大変興味を持った。「巻末スキルブック」も良い。生活に根付き、データ等を基にしながら自分の生活をしっかりと見直していくという意味で、東京書籍を推薦する。

委員 東京書籍は、ほぼ見開きで完結する構成で読みやすく、分かりやすく設定されていると感じた。

G a k k e nは、先ほどウォームアップの話があったが、問いが自分自身につながる形になっているのが良いと感じた。例えば、薬物乱用の関係では、東京書籍は、覚醒剤の使用や所持は年齢に関係なく禁止されていますがなぜかという形で、G a k k e nは、あなたは自分には関係ないと考えているのはという形になっている。また、G a k k e nは、資料でも

考えさせる内容になっており、G a k k e nを推薦する。

委員

例えば、交通事故の原因のところで見ると、東京書籍は割と大人にも当てはまる一般的な感じで記述されているが、G a k k e nは、中学生に特化した項目立てとなっており、中学生が使用することを非常に意識しているのが特徴で、工夫が見られる。喫煙のところでも同様の傾向が見られ、G a k k e nを推薦する。

委員

東京書籍は、非常に見やすい。保健体育の場合、読み込むというより、直感的に写真等を見て想像し、内容を理解するということを重視するという観点からすると、G a k k e nのように詳しい内容はどうか。G a k k e nもウォームアップなど項目立てて工夫されているが、東京書籍の方が扱いやすいのではないかと思い、東京書籍を推薦する。

教育長

ストレスへの対処については、中学生にとって非常に重要な部分であるが、東京書籍は少しあっさりしている印象で、中学生の心の状況に迫るのはG a k k e nではないかと感じた。性教育や薬物乱用のところでも、G a k k e nの方が丁寧だと感じられた。また、自然災害に備えてのところが、G a k k e nは非常に詳しく具体的で、タイムライン作成は、学校教育では是非取り入れていきたいと思っているところである。総合的にG a k k e nに魅力を感じたところであるが、いかがか。

委員

いずれもすばらしい内容で甲乙つけがたいという状況であった。確かに、子どもたちの現状に即している点や、防災の観点も含めて、G a k k e nで問題はない。

委員

異議なし。

教育長

「保健体育」については、「G a k k e n」を採択することにするがよいか。

※ 全員一致により、「保健体育」については、「G a k k e n」を採択するこ

とに決定した。

教育長 次に、「技術分野」について審議を行う。推薦の主な理由等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 「技術分野」は、「東京書籍」、「開隆堂出版」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

教育長 情報セキュリティと情報モラルについて、両社で印象がかなり違うが、扱っている内容に違いはあるのか。

教育研究所主席主査 各社とも扱う内容は同じで、情報セキュリティに関すること、情報モラルに関すること、そして知的財産に関することである。ページ数で言えば、開隆堂出版がページをより割いて説明している。

教育長 例えば、情報セキュリティに関する内容は、同じということではよいか。

教育研究所主席主査 そのとおりである。

委員 情報モラルで比較すると、開隆堂出版は、情報発信するときに注意する視点という形で、個人情報保護や人権、プライバシー保護など、非常に明確に分かりやすく記述しているのに対し、東京書籍は、若干ぼやけている感じを受けた。木材加工のところでも、開隆堂出版の方が作業の流れ等が分かりやすい。技術は、やはり分かりやすさが重要であるので、開隆堂出版を推薦する。

教育長 木材加工の実習例は、非常に丁寧に説明してあって使いやすいつと感じた。

委員 開隆堂出版は、最初の導入が非常に丁寧で、技術で何をやるんだろうという1年生にとって、スプーンやはさみなど身近なところで、ページも割いて丁寧に分かりやすいところが、一貫している印象である。東京書籍も探しやすく読みやすいページ構成で作られていると思うが、子どもたちの身近なも

のを多く提示しているというところで開隆堂出版を推薦する。

委員

開隆堂出版は、イラストが効果的で、情報モラルを軽んじてはいけないということをしっかり学ばせる1つのきっかけになっているのではないかと思う。また、紙面の使い方が大変上手で、チューリップやキュウリの栽培に関しても、両面見開きで手順が分かりやすく提示されている。東京書籍は、誰かのために物を作っていくというところで、ただ作るということだけではなく、誰かのため、生活を豊かにするためにということも示唆していくあたりは見事と感じた。教科書としての使いやすさから、開隆堂出版を推薦する。

委員

情報モラルに関しては、これからの社会を生き抜いていく子どもたちにとって不可欠な知識であるが、東京書籍が割とコンパクトに記述している一方、開隆堂出版は、ページを割いて詳しく記述している。また、これからの時代は、コンピュータ、ICT関係の知識も必要だと思うが、やはり技術の基本である物を作ったり植物を育てたりといったことの重要性を考えれば、開隆堂出版がかなり丁寧に作られていると思うことから、開隆堂出版を推薦する。

教育長

情報、コンピュータの取扱いのところを見ると、両社かなり違って、スマートフォンやパソコンを普段使っているとある意味意識しなくなってくるところであるが、コンピュータはこうなっているとしっかり教えているのは、開隆堂出版ではないかと思う。

「技術分野」については、「開隆堂出版」を採択することにするがよいか。

※ 全員一致により、「技術分野」については、「開隆堂出版」を採択することに決定した。

教育長

次に、「家庭分野」について審議を行う。推薦の主な理由

等について、事務局から説明願う。

学校教育課長 「家庭分野」は、「東京書籍」、「開隆堂出版」が推薦されている。

(審議の概要と推薦理由について、資料により説明)

委員 開隆堂出版は、SDGsという考えの中でジェンダーフリーや男女共同参画社会などの記述があるが、東京書籍はどうか。

教育研究所主席主査 東京書籍は、様々な家族の形を示している。ジェンダーに関しては、制服、性差に対応した制服といったところなどで取り扱っている。

委員 開隆堂出版のように、ひとまとめにしての記述はないということか。

教育研究所主席主査 開隆堂出版は、多様性というところに大きく力を入れているというのが選定委員会でも話題に挙がっており、その部分でまとまった記述となっているほか、他のページでもイラスト等で示しているところがある。

委員 いわゆる「共生」の部分で明確な取扱いをしているのは、開隆堂出版ではないかと感じている。これから人生を送っていく生徒たちにとって、このような大事な視点を中学生の頃からしっかりと学んでいく方が良いと考える。全体的にみても、開隆堂出版は見やすいし、テーマもはっきりした構成となっていることから、開隆堂出版を推薦する。

委員 開隆堂出版は、SDGsとの関連性を非常に重視しているほか、自立と共生との一体化に向けて、家族・家庭・地域とのつながりというところも上手に表現していると思う。子どもと接する経験が少なくなっている中で幼児の生活にも紙面を割いているところや、子どもの権利条約、許されない児童虐待など、今の子どもたちが抱える生きていくために難儀な部分にも切り込んでいるところも良い。中学生から、幼児や子どもに対する温かな目を持つとともに、自分自身が思いやりを持ってどのように人と関わっていくのかという点でも大

きく示唆するものではないかと考える。以上から、開隆堂出版を推薦する。

委員

開隆堂出版は、「家族・家庭生活」という分野が最初にきていて、東京書籍は、最初の「未来につながる家庭分野」の中に「家族と家庭生活」という章と、最後の方の「私たちの成長と家族・地域」の章に分かれているが、開隆堂出版のようにまとまっている方が分かりやすい印象である。開隆堂出版は、家族とのつながりや中学生の発達の特徴、自分のことを自分で理解すること、自己肯定感、不登校などの記述を最初に持ってきて、その後に細かい食生活・衣生活・住生活、最後に難しい消費生活・環境という構成で、非常によく考えられていると感じた。また、消費者トラブルの記述は両社にあるが、東京書籍は割と網羅的で、開隆堂出版の方が記憶に残りやすいイメージで学びやすいのではないかと考える。以上から、開隆堂出版を推薦する。

委員

両社とも問い掛け、目標があって展開されていくという丁寧な流れになっているが、開隆堂出版の子どもたち一人ひとりに問い掛けをしていく設定になっているところや、資料の「先輩からのエール」も具体例が多く、非常に良いと感じた。また、レイアウトも工夫されていて読みやすく、総合的に判断して、開隆堂出版を推薦する。

教育長

開隆堂出版は、多様な家族関係や、自分を理解されているか、相手を理解できているかといった辺りに目を付けているところが良いと感じた。また、消費者の権利と責任といったことに関しては、はっきりと社会のルールを書いているのは開隆堂出版ではないか。調理の実習では、開隆堂出版の方が、Q&Aの形でなぜそうなるのかを記述しており、大変分かりやすく納得できる表現となっていた。

「家庭分野」については、「開隆堂出版」を採択することにするがよいか。

※ 全員一致により、「家庭分野」については、「開隆堂出版」を採択することに決定した。

教育長 全ての種目について、採択する教科書が決定したので、最後に、採択する教科書を確認する。

「国語」については「光村図書出版」、「書写」については「光村図書出版」、「地理」については「東京書籍」、「歴史」については「東京書籍」、「公民」については「東京書籍」、「地図」については「帝国書院」、「数学」については「教育出版」、「理科」については「東京書籍」、「音楽一般」については「教育芸術社」、「器楽合奏」については「教育芸術社」、「美術」については「開隆堂出版」、「保健体育」については「G a k k e n」、「技術分野」については「開隆堂出版」、「家庭分野」については「開隆堂出版」、「英語」については「東京書籍」、「道徳」については「光村図書出版」である。

※ 議案第9号については、「国語」については「光村図書出版」、「書写」については「光村図書出版」、「地理」については「東京書籍」、「歴史」については「東京書籍」、「公民」については「東京書籍」、「地図」については「帝国書院」、「数学」については「教育出版」、「理科」については「東京書籍」、「音楽一般」については「教育芸術社」、「器楽合奏」については「教育芸術社」、「美術」については「開隆堂出版」、「保健体育」については「G a k k e n」、「技術分野」については「開隆堂出版」、「家庭分野」については「開隆堂出版」、「英語」については「東京書籍」、「道徳」につ

いては「光村図書出版」の教科書を使用することに決定した。

【教育長等の報告】

(3) 秋田市立中学校における個人情報の不適切な取扱いについて

報告(3)については、秘密会のため、秋田市教育委員会会議規則第21条の規定に基づき、会議録に記載しない。

午後5時閉会